

「GOLD 金先物取引のご案内 (以下「本冊子」という。)」に関する著作権は、株式会社大阪取引所 (以下「大阪取引所」という。) にあります。本冊子の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。

本冊子は、大阪取引所の先物・オプション取引に関する制度の概要説明のみを目的として提供されるもので、先物・オプション取引の勧誘を目的としたものではありません。先物・オプション取引においては、相場の変動等によって損失が生じるおそれがあり、差し入れた証拠金の全部若しくは一部を失う、または、差し入れた証拠金を超える損失を被ることがあります。

また、相場変動等により証拠金額に不足が生じた場合には、追加の差し入れが必要となります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等より交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で取引を行ってください。

本冊子に含まれる記述などの使用に関し、大阪取引所は一切責任を負いません。大阪取引所は本冊子に記載の事項に関し、将来予告なしに変更することがあります。

金融商品取引業者等使用欄

GOLD
金先物取引のご案内
2026年3月 発行
編集・発行 株式会社大阪取引所

〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-8-16
TEL: 06-4706-0800 (代表)
URL: <https://www.jpx.co.jp>



金の魅力

金は、世界の主要な市場(ロンドン・チューリッヒ・香港・東京・ニューヨークなど)で絶え間なく取引が行われ、国際商品としては、原油と並ぶ経済指標の一つとしてその価格は注目されています。実物資産として発行体の破綻リスクが存在しないため、有事の際には金は資産の緊急避難先(ラスト・リゾート)としての役割を果たします。

【金の特長】

金は、金属の中では展延性が最も優れ、加工が容易であり、酸化・腐食しません。世界に通用する価値を有し、換金性が高いのも特徴です。

金の主な供給元としては、鉱山における生産による一次供給、スクラップから回収される二次供給、公的機関による売却、鉱山会社による売りヘッジ、そして公的機関の売却(退蔵放出)などがあげられます。

一方、金の需要は、宝飾品用や工業用などの加工用需要と、有事における備えや投資目的による金の保有といった退蔵用需要とに大別されます。

【金価格の形成】

国際的に取引される金の価格は、1トロイオンス(31.1035グラム)当たりのドル建てとなります。その基本となるのは、ロンドン渡しの取引条件で銀行やディーラーなどで行われる相対取引により成立した現物価格(ロコ・ロンドン・スポット価格)です。

日本国内で取引される金の価格は、グラム当たりの円建てとなりますので、トロイオンス当たりのドル建て価格から換算する必要があります。ロコ・ロンドン・スポット価格から算出する際の計算式は以下のとおりです。

【円建ての国内金価格】

「ロコ・ロンドン・スポット価格」÷31.1035×「為替(ドル円)」

*大阪取引所の金先物価格は、上記で算出した価格をベースとし、取引最終日までの保有コスト(金利、諸経費)などを加味して形成されます。

*輸入採算価格は、換算式から求められるおおよその目安です。

*小売価格は、地金商の手数料及び消費税などが含まれますので、地金商によって異なります。

■ 金先物取引

大阪取引所(OSE)で行われる金先物取引は、各契約の満期(限月:げんげつ)、立会時間、呼値(よびね)、取引単位などの条件が標準化されており、『金標準先物』、『金ミニ先物』、『ポケットゴールド100先物』及び『金限日先物(2026年12月22日をもって取引を休止)』があります。金先物取引は、証拠金を預託することによって取引を行う「証拠金取引」であるため、資金効率の高い取引が可能です。

世界の主要な金先物市場は、OSEのほか、シカゴのCMEグループ傘下のニューヨーク商品取引所(COMEX)、上海期貨交易所(SHFE)、インドマルチ商品取引所(MCX)などがあります。

■ OSE金先物取引の制度概要

	金標準先物	金ミニ先物	ポケットゴールド100先物
取引対象	純度99.99%以上の金地金(標準品)	金標準先物の価格	金標準先物の価格
呼値の単位	1gにつき1円 (1取引単位につき1,000円)	1gにつき50銭 (1取引単位につき50円)	1gにつき1円 (1取引単位につき100円)
取引単位	1キログラム	100グラム	100グラム
清算値段/清算数値	最終約定値段等	同一限月の金標準先物の清算値段	同一限月の金標準先物の清算値段 同一限月の金標準先物の限月取引が存在しない場合には、最終約定数値
最終演算数値	—	金標準先物の当月限取引最終日における日中立会の始値	金標準先物の当月限取引最終日における日中立会の始値
限月	偶数限月(直近6限月)	偶数限月(直近6限月)	翌年12月限月のみの1限月制 (1年2か月、10月から12月までの間は2限月制)
取引最終日	受渡日*1から起算して4営業日前に当たる日(日中立会まで)	同一限月の金標準先物の取引最終日の前営業日(日中立会まで)	翌年の12月限の金標準先物の取引最終日の前営業日(日中立会まで)
受渡決済	可能*2	なし	なし
取引時間	日中立会:8:45~15:45 夜間立会:17:00~翌6:00		
祝日取引*3	あり	あり	あり

*1. 受渡日は毎偶数月末日(12月は28日。受渡日が休業日又は大納会に当たるときは順次繰り上げ。)

*2. 受渡しを希望される場合は、金融商品取引業者等にご確認ください。

*3. 祝日取引実施日はJPXウェブサイト参照。 参考: <https://www.jpjx.co.jp/derivatives/rules/holidaytrading/index.html>

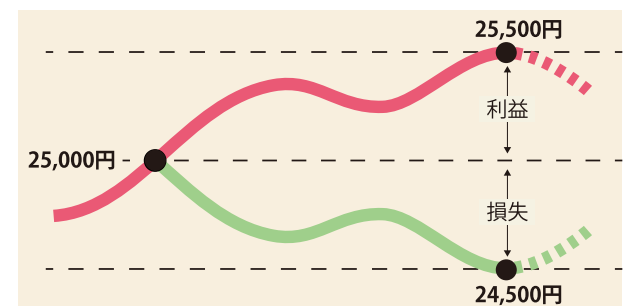


■ 取引の計算例

※金標準先物の例です。金ミニ先物・ポケットゴールド100先物は取引単位が金標準先物の10分の1であり、取引の計算結果も10分の1となります。

<『買い』の例>

金価格の上昇を予想したため、金標準先物の中心限月を1g当たり25,000円で5枚買い、その後、25,500円まで上昇したので転売して決済しました。



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (25,500\text{円}-25,000\text{円}) \times 1,000\text{g} \times 5\text{枚} = & 2,500,000\text{円} \end{matrix}$$

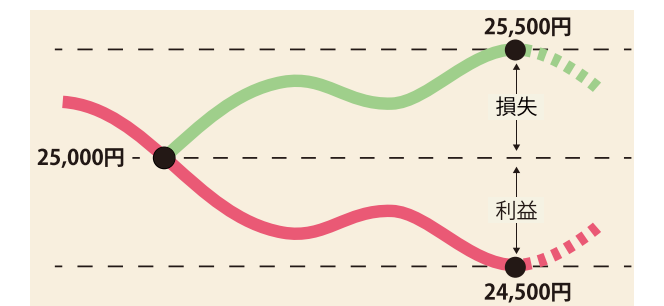
逆に価格が24,500円まで下落して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (24,500\text{円}-25,000\text{円}) \times 1,000\text{g} \times 5\text{枚} = & \blacktriangle 2,500,000\text{円} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

<『売り』の例>

金価格の下落を予想したため、金標準先物の中心限月を1g当たり25,000円で5枚売り、その後、24,500円まで下落したので買い戻して決済しました。



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (25,000\text{円}-24,500\text{円}) \times 1,000\text{g} \times 5\text{枚} = & 2,500,000\text{円} \end{matrix}$$

逆に価格が25,500円まで上昇して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (25,000\text{円}-25,500\text{円}) \times 1,000\text{g} \times 5\text{枚} = & \blacktriangle 2,500,000\text{円} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

金価格を動かす主要因

世界が注目している金価格は、「ロコ・ロンドン・スポット価格」に加え、世界最大の取引量を誇るニューヨーク商品取引所 (COMEX) の金先物価格があげられます。これらの金価格はさまざまな要因で変動しており、その動きは大阪取引所の金先物価格にも反映されます。

Factor 1 金融情勢

株式や債券など金融商品の信用が低下すると、投資資金は金へシフトし、金価格は上昇する可能性が高まります。逆に景気好転などにより株価が上昇すると、投資資金は金市場から離脱して株式市場に流れるため、金価格にとって圧迫材料となります。また、金は利息が付かないことから、金利低下局面では相対的に投資妙味が高まり価格を押し上げる要因となりますが、金利上昇局面ではこの逆のことがいえます。

Factor 2 為替動向

金は国際市場では主に米ドル建てで取引されていますので、米ドルの価値（為替レート）が金価格に大きく影響します。米ドル高は、他国通貨を持つ者にとっては金の購入コストが上昇し、需要が抑制されることになるため、米ドル建て金価格を押し下げる要因となります。反対に米ドル安はその逆のことが言えます。なお、大阪取引所の金先物は円建ての取引であり、円安になると輸入コストが上昇するため価格が上昇し、逆に、円高になると輸入コストが下がるため価格は下落する傾向にあります。



Factor 3 中央銀行による金の売買

世界各国の中央銀行は、米ドルへの依存軽減、インフレに対するリスク分散、金融システムの安定化・信頼確保などを図るため、金を購入する動きがあります。その場合、金価格は上昇する確率が高くなります。逆に、各国の中央銀行が金の購入を減らしたり、保有している金を売却する動きが強まると、市場に金が多く供給されるため、金価格を押し下げる要因となります。

値上がり要因例

- 世界的な景気拡大
- ドル安・金利安
- 中央銀行の買い
- 金ETF残高増加
- インフレ懸念
- 地政学リスク等の緊張

- 世界的な景気後退
- ドル高・金利高
- 中央銀行の売り
- 金ETF残高減少
- インフレ鎮静化
- 地政学リスク等の緩和

値下がり要因例



Factor 4 金ETF

金ETF (上場投資信託) は株式と同じ有価証券で、多数の投資家が出資した資金をプロが運用し、それで得た収益金を投資家に還元するタイプの金融商品です。一般的な金ETFの特徴は、投資の裏付けとして、投資資金に応じた金地金を購入して保管することです (指数連動タイプなどもあります)。つまり、金ETFの購入残高が増えればそれだけ金地金を買われ、結果として金価格は上昇することになります。逆に、金ETFの購入残高が減少すれば保有残高は減り、金価格を押し下げる力として働きます。

Factor 5 インフレ

経済活動が活発になり、景気が回復を始めると、商品価格は先行して上昇することがあります。商品価格上昇の背景には、景気回復による商品の需要増とともに、各国政府が財政出動をしたり、中央銀行が金融緩和を行った結果、通貨発行量が増えていることがあります。消費者物価上昇によりインフレを招くと、金はインフレヘッジとして買われることがあります。逆に、リセッション (景気後退) となり、物価抑制が効いてデフレ状態が続くと金の買い人気は後退し、金価格が下落するケースが出てきます。



Factor 6 世界に影響を及ぼす大規模リスク

地政学リスクの高まり、つまり特定地域で政治的・軍事的な緊張が強まると、安全資産としての金への信頼が高まり、金価格の上昇要因となり、金は「有事の備え」として多くの人々から注目されます。一方、国際的な不安や緊張が緩和されると、金価格を押し下げる要因となります。加えて、貿易摩擦や気象変動による自然災害、パンデミックなどの世界的なリスクが社会や経済に不安をもたらす場合にも、金がリスク回避の手段として買われることがあります。



GOLD 9

金先物取引 9つの Q&A

Q1 金の魅力って何でしょうか

A1 世界共通の希少な資産です。

金は、洋の東西を問わず、悠久の時を超え、人類が価値を認めてきた数少ない物質のひとつです。発行した企業や国の破たんにより価値が消滅するペーパー資産とは異なり、金はその価値を失うことはありません。まばゆい輝き、そして内在する普遍的な価値こそが金の最大の魅力です。

Q2 金はなぜ信頼が厚いのですか

A2 インフレの高進時に真価を発揮します。

通貨の購買力が急落した時、金価格の上昇で資産の目減りを防ぐことが可能です。インフレの高進時に資産のセーフガードとして真価を発揮する金は、世界的に通貨の代替役として絶大な信頼を得てきました。

Q3 金先物取引のメリットを教えてください

A3 投資効率の高い取引が可能です。

金地金1kgを買う場合、金価格が1g当たり25,000円なら、ざっと2,500万円の総代金が必要になります。しかし、金先物取引なら、同じ1kg(1枚)を取引するのに必要な資金は総代金の数%の取引証拠金で済みます。このように、金先物取引は投資効率の高い取引が可能です。

Q4 金先物取引は『売り』からも取引を始められると聞きました

A4 『売り』からでも『買い』からでも取引を始められます。

将来、金価格が値上がりすると思えば『買い』から取引を始めて期限内に『転売』します。逆に、将来、金価格が値下がりすると思えば『売り』から取引を始めて期限内に『買い戻す』のが金先物取引の特徴です。この仕組みを“差金決済”といいます。なお、金標準先物は期限内に差金決済を行わないと現物の受渡しによる決済(受渡決済)となるため、この点に留意が必要です。



Q5 金先物取引で注意すべきことは何ですか

A5 投資元本以上の損が発生する場合があります。

金先物取引は証拠金取引であるため、金価格が予想とは逆に動いた場合には、投資元本以上の損失が発生する可能性があります。しかし、あらかじめ損失の限度を決め、それに応じた売買注文を出しておくことで、損失の拡大を回避することも可能です。

Q6 もし、価格が予想とは逆に動いたらどうすればよいのですか

A6 早めの判断と冷静さが大切です。

相場が予想とは逆に動いて損失が発生した場合には、いま以上に損が拡大しないよう、いったん取引を終了して次のチャンスを狙うのか、それとも当初のプランに則って取引を継続するのかを冷静に判断しましょう。金先物取引で最も大切なことは、資金に余裕をもって取引をすることです。

Q7 大きなリスクは取りたくありません

A7 取引サイズの小さなミニ取引などもあります。

金先物取引には1kg単位の『金標準先物』と、100g単位の『金ミニ先物』、『ポケットゴールド100先物』があります。金価格が1ティック動いた時の損益は、金標準先物なら1,000円、金ミニ先物は50円、ポケットゴールド100先物なら100円です。

Q8 取引証拠金は現金でなければダメですか

A8 現金のほかに国債、株券など有価証券を活用できます。

金先物取引の取引証拠金は、現金に代えて株式会社日本証券クリアリング機構(JSCC)の定める代用有価証券(株券、国債証券、政府保証債券、外国国債証券、地方債など)及び外貨を預入れることができます。ただし、現金不足額については現金の差入れが必要となります。代用有価証券等の範囲や詳細はご利用の金融商品取引業者等にお問い合わせください。

Q9 金先物取引はどうすれば売買できますか

A9 金先物取引の売買は大阪取引所で行われます。お取引の方法や詳細については、金融商品取引業者等にお問い合わせください。